

# つばき

# ケーブルベヤ<sup>®</sup>

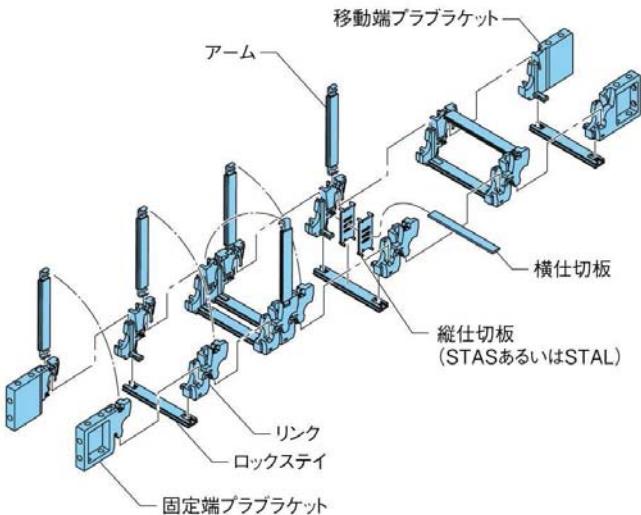
取扱説明書

**TKR20H28**  
(旧 TKR0200H28)

(注) 作業の際には適切な保護具（安全眼鏡、手袋、安全靴など）を着用してください。

1

## 構造・名称



2

## 仕切板の取付け

仕切板はケーブル・ホース挿入時に取付けます。

アームを開けた（ロックスティだけを取り付けた）状態で、以下の手順にしたがって縦仕切板をロックスティの内周面に取付けてください。

1) 縦仕切板の片方の係合部をロックスティに引っ掛けます。

2) 縦仕切板の片方の係合部を引っ掛けた部分を基点にして他方の係合部を回転させるように押し込むと、縦仕切板が取付けます。

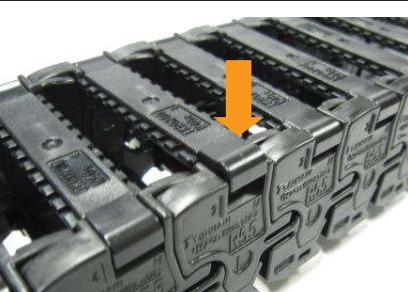


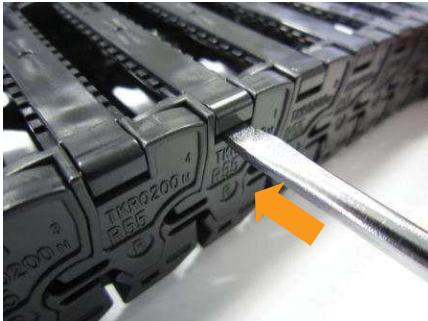
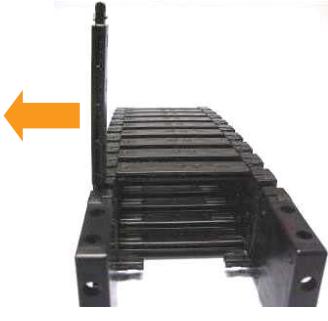
縦仕切板には、下図の2種類あります。

STAS (DSA用スライドタイプ)	STAL (DSA用ロックタイプ)

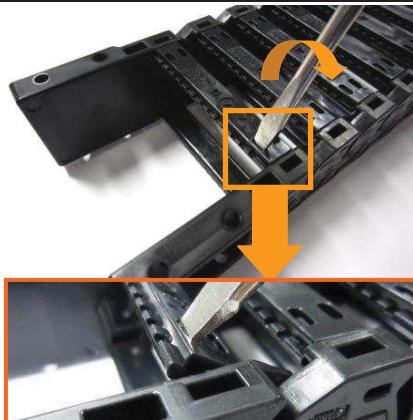
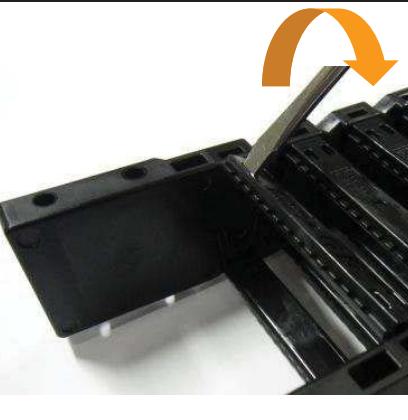
注1) 仕切板は、2リンク毎に取付けます。1カ所に入る数量を確認ください。

注2) 隣り合うロックスティに連続して同じ位置に縦仕切板を取付けるとケーブルベヤが屈曲したときに干渉するので、仕切板の取り付け間隔（ピッチ方向）は、必ず2リンク以上としてください。

3 アームのはめ込み	
1) アームを矢印の方向に押さえて、本体リンクに組込みます。	2) 確実に組込まれているか確認してください。
	
	

4 アームの取外し	
1) アームのロック部分とリンクの隙間にマイナスドライバーを挿入しロックを解除します。 注) もし差込んでもアームが浮き上がらない場合はドライバーを軽く上に傾けてください。 注) 無理にドライバーを差込むとリンクのバー部が変形する恐れがあります。	2) アームを開いて軸を中心に垂直になるまで回転させます。
	
	

注) 先端の幅が4.5mm以下のマイナスドライバーをご使用ください。

5 ロックスティの取外し	
1) ロックスティのくぼみにマイナスドライバーを挿入し、軽くこじるとロックスティが少し浮き上がります。 注) マイナスドライバーを強くこじりすぎるとロックスティが破損し、飛散することがあります。	2) 1)と同様に反対側（ロックスティ長さ方向）のくぼみにマイナスドライバーを挿入し、軽くこじるとロックスティが大きく浮き上がります。
	
	

注) 先端の幅が4.5mm以下のマイナスドライバーをご使用ください。

## 6 ケーブルレベヤの連結およびブラケットの取付け

長尺編成（100 リンク以上）の場合は原則として分割して納入します。以下の手順にしたがって連結してご使用ください。ブラケットの取付け方法も同様です。アームおよびロックステイの取外し方法は前項を参照ください。

1) 両端の各5リンク以上のアームおよびロックステイを取り外し、方向をそろえます。	2) リンクの上側の凸部を隣のリンクの凹部にはめ込みます。	3) リンクの下側をはめ込みます。
↓ □部拡大図	↓ □部拡大図	↓ □部拡大図
4) 反対側のリンクも同様に連結し、アームおよびロックステイを取付けてください。		

## 7 ケーブルレベヤの分割およびブラケットの取外し

以下の手順にしたがって必要な長さに分割してご使用ください。ブラケットの取外し方法も同様の手順です。

1) 分割したい部分から両側の各5リンク以上のアームおよびロックステイを取り外し、リンク下面（内周側）の孔にマイナスドライバーを差し込みます。	2) マイナスドライバーを矢印の方向にこじるとリンクが外れます。

注) 先端の幅が4mm以下のマイナスドライバーをご使用ください。

## 8 ロックステイの取付け

以下の手順にしたがってロックステイを取付けてください。

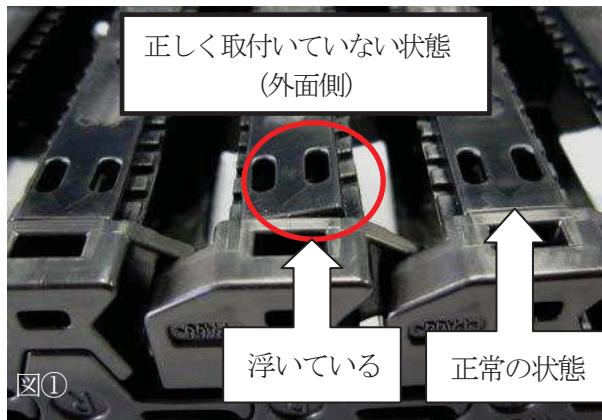
1) ロックステイを45°以上傾けた状態で、横方向からリンクの突起とロックステイのくぼみをあわせます。	2) ロックステイの中央部を持ち、回転させます。	3) ロックステイの中央付近を押し込んで、ロックステイを取付けます。

注1) ロックステイが確実にリンクのステイ部に、はまっているか必ず確認してください。

正しく取付いていないと稼働中にロックステイが脱落する場合があります。

注2) 特に、縦仕切り板を使用する場合は仕切り板を取付けた後に、ロックステイが確実にリンクのステイ部にはまっているか必ず確認してください。

注3) ロックステイが正しく取付けられていない場合は図①、②のように端部が浮いた状態になりますので、ご注意ください。



図①

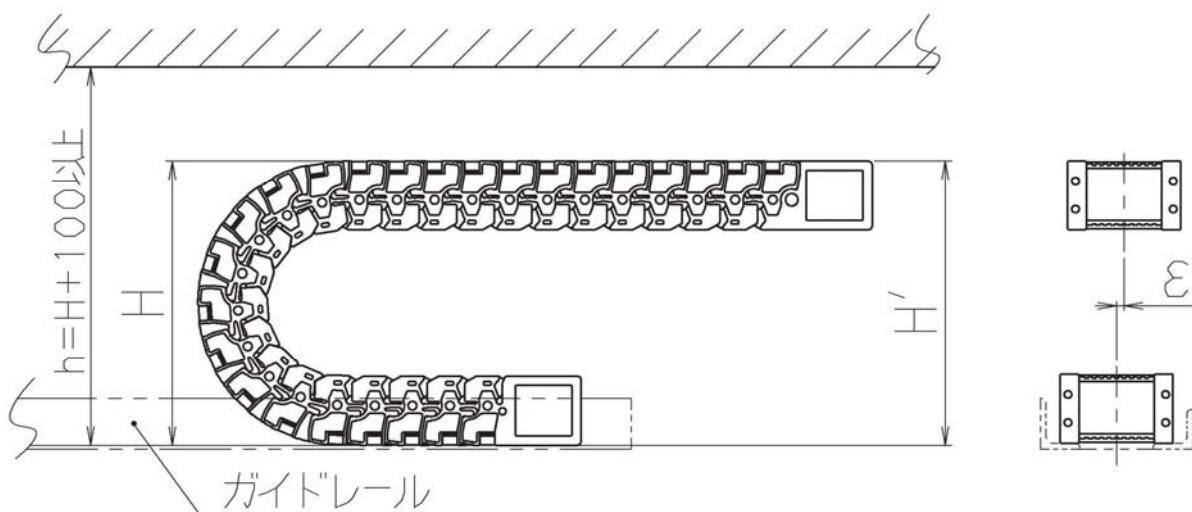


図②

## 9

## 取扱上の留意点

ケーブルベヤには、ご使用によっては、フリースパン部にふくらみやたわみがあらわれますが、当社能力線図内で選定されている場合は、使用上問題ありません。



1. 機械装置の移動端取付高さ ( $H'$ ) は、ケーブルベヤの高さ  $H + (30 \sim 50)$  としてください。
2. ケーブルベヤの空間高さ ( $h$ ) は、 $H + 100$  以上としてください。
3. ガイドレールを取付けてください。
4. 移動端ブラケットと固定端ブラケットの取付面誤差 ( $\varepsilon$ ) は、6mm 以下にしてください。
5. ケーブル・ホースは屈曲性、耐摩耗性に優れた移動用のものをご使用ください。
6. ワイヤーブレード外装のものは、いたみやすいことがあるので、使用を避けてください。

7. ケーブル・ホースは積重ねて使用すると摩耗が生じやすいので、横に並べるか、横仕切板をご使用ください。
8. ケーブル・ホースは長さに余裕をもってセットし、適正な長さに調整のうえ、両端部でクランプしてください。
9. ガイドレール内に異物があると、破損の原因になりますので取除いてください。
10. 仕切り板は部品送りといたしますので取付時に組み込み願います。

◎プラブラケットの取付面に凹凸があると、プラブラケットが破損する場合もありますので、なるべく滑らかな平面に取付け願います。また、プラブラケットの取付ボルトを締めすぎると破損する場合もありますので下記推奨締付トルクにて締付け願います。

ボルトサイズ	推奨締付トルク
M4	0.6 N·m